

この報告は昭和四十二年の都文化財報告書「西多摩文化財総合調査報告」に報告されていた福生の民家五軒分を転載したものである。

あとがき

民俗調査二年目、市民参加の調査ということで、昨年の調査団に「昔話、民話の教室」終了後のファイル、ワーク希望者三名を加え、さらに広報「ふつき」で調査員を募集した結果、五名の希望者が出、その中で実際に参加した一名を加え七名の調査員が編成できた。

いそがしい中での調査で大変ご迷惑をかけた。また市民参加という調査のむずかしさも感じざるを得ない。しかし地域の中に自分たちの地域の歴史なり、民俗なり、を調査できる力を持った市民を生み出すこと、いいかえれば、地域の「専門家」を育てるということがいまは大切なようにおもえる。それだけに川鍋先生をはじめ何人かの調査員の方々には過大な負担をかけ、ご迷惑をかけていることをおわびし、感謝したい。

また「民家」調査は島田先生の格別なご協力で横浜国立大学建築科の方々を調査員に迎え、一段と詳しい「民家調査」報告が出来たことを感謝し、お礼申し上げます。

「民家」は昭和四十二年の都文化財報告「西多摩文化財総合調査報告」の中で五軒ほど報告されているが、一九七五年現在

で、福生市内に現存するわらぶき屋根は五軒にすぎない。この調査がおそらく福生市の民家調査の最後の報告になろう。

民俗調査は長い時間が必要とされる。それにもかかわらず調査に協力いただいた市民の方々にお礼と感謝したい。最後にこの小冊子が多くの市民の学習や研究の一助となれば幸いである。

福生市文化財総合調査報告

福生の民俗

人生儀礼
民家

発行 一九七六年三月三十一日

編集 福生市教育委員会
発行

印刷 昭和印刷株式会社

